プロとしてのあるべき姿

社団法人埼玉県放射線技師会
副会長　橋　本　里　見

この巻頭言を書く数週間前に全英オープンゴルフを見た。ゴルフ番組をよく見ているわけではないが、放送時間が日本のゴールデンタイムにあたるせいか毎年見ている。今回の大会では印象に残る出来事があった。

T・ワトソン選手のセントアンドリュースでの最後の18番ホール。その勇姿に立ち会い石川遼選手が涙しながら「プロゴルファーのあるべき姿、進む道を教えてもらった。一生の宝となる大会になった」と語っている。プロとしてのあるべき姿。どの職業にもプロとしての姿はあるだろうが、放射線技師としてのあるべき姿・・・とはどういう姿だろう。患者と対するときは患者の立場になり、労力を惜しまない。医師とは対等に話せる知識をもつ。他の職種、同僚と調和して仕事をこなす。各自それぞれが思うあるべき姿は違うかもしれない。

自分にもあこがれる先輩、目標にする先輩がいた。技師になりたての自分に仕事の基礎を教え、技術を向上させるための勉強の必要性を教えてくれた上司がいた。埼玉県放射線技師会の業務のうえでは、対外的な交渉、高い目線から組織をみる大切さ、モチベーション維持の重要性を示してくれる尊敬できる先輩がいた。

T・ワトソン選手は石川遼選手に「君は本当にいい選手だし、いいスイングをもっている。それを変えることなく頑張ってくれ」と語ったそうだ。私は自分が指導する立場となった今、後輩たちに何を示せているのだろう。後輩たちの良いところを見つけ伸ばすことができているであろうか？何年たっても自問自答してしまう。

我々はT・ワトソン選手のような世界的名プレーヤーではない。ごく普通の人間の集まりである。だがそのごく普通の人間の集団、埼玉県放射線技師会のなかにもそれぞれの分野にすごい才能をもつメンバーがちゃんと揃っている。「CTの分野」「MRIの分野」「消化管造影検査の分野」「画像情報の分野」「放射線治療の分野」「放射線被ばくの分野』のエキスパートを何人も知っている。また、技術に限らず患者への接遇が的確な人、文章力のある人、人間関係を円滑に運べる人、努力を惜しまない人など人材は豊富である。つまり、職能団体には模範となる指導者がたくさんいるわけだ。

はじめに簡単なことで良いから自分の目標をひとつ決める。そしてその分野の先輩に声をかける。まずは後ろからその人が何をしているかを見る。そして徐々に一緒に歩いていってもらいたい。言葉をかける側、受け取る側の人間性にもよるが、総じて人格者の周りには人は集まる。人脈を広げることで人は成長する。将来T・ワトソン選手のような言葉を同僚や後輩にかけてあげられるようになってみたくはないか。

私は・・・せめて反面教師にはならないようにしたい。